

第1回砂像祭り

大丸公民分館が白砂青松を
生かしまちおこし



▲茶園勝彦さん 『マーメイド ～人魚姫～』
(過去砂の彫刻世界大会で1位になった加世田市出身のアーティスト)



▲大丸砂像実行委員会 『ポセイどんと仲間たち』



▲大崎町役場職員チーム 『海を支配した男』

8月20日(土)、大丸改善センター前特設広場において、大崎町では初の試みである砂像祭りが開催されました。

この砂像祭りは大丸公民分館砂像祭実行委員会(中倉広文委員長)が企画したもので、地元資源である白砂青松を生かしたまちおこしと地域住民の交流を目的に、昨年からの準備を進めてきました。その資金集めのために、オリジナルTシャツや焼酎『松露の響き』の販売にも取り組んできました。

当分館はこれまでに、先進地である加世田市への視察や砂の祭典実行委員の方々との情報交換を行ってきたほか、今年5月に開かれた吹上浜砂の祭典に初めて出場し、南日本新聞社賞を受賞しています。

制作された砂像は18基で、メインの砂像には、砂の彫刻世界大会での優勝経験を持つ加世田市出身のアーティスト茶園勝彦さん、大丸砂像実行委員会、大崎町役場職員チームの3作品、一般の部では、大丸小学校教職員、地元企業、病院関係者などの作品5基と町内の小中学校の児童・生徒による作品10基が立ち並びました。

会場内には子ども体験広場も設置され、保育園児や小学生の子ども達が砂像づくりに挑戦しました。

また、この日はビーチバレーやビーチサッカー、ビーチドッジボールなどのビーチスポーツフェスタも同時開催され、参加した選手たちは、砂にまみれながらも楽しそうにプレーしていました。

会場には一般客、スポーツ参加者などを含め、町内外から約500人が訪れ、迫力ある砂の彫刻やビーチスポーツを楽しみました。